

1. 三島市におけるスポーツ振興に向けた取り組み状況と成果

(1) 取り組みの状況

施策方針	テーマ	施策	具体的な活動		
(基本理念) 『健康で 豊かなスポーツ文化とコミュニティの形成』 『健幸都市みしまを支える』	1 次世代を担う 子どもたちの スポーツ環境の整備	1 時代変化に対応した スポーツ環境の整備	1)スポーツ少年団活動等の充実 2)地域における学校部活動の補完機能の整備 3)トップアスリートの発掘・育成システムの整備	スポーツ少年団の支援 外部指導者による中学校部活支援 スポーツ団体と連携した部活支援 みしまジュニアスポーツアカデミー	
		2 スポーツ保育の普及	1)乳幼児期の親子スポーツの啓発 2)幼児期・学童期に楽しめるスポーツの推進 3)幼稚園・保育園等との連携	スポーツスタート 民間スポーツクラブの子ども向け教室 大学と連携した園児体力測定	
		1 地域の絆を創る身近な スポーツ環境の整備	1)学校施設開放の仕組みの充実 2)公民館などのスポーツ利用の促進 3)スポーツを通じた地域の絆づくり	学校体育施設開放事業 市立公民館自主講座 市民運動会 小学校区退会支援事業	
		2 幅広くスポーツ参加を 促す機会や場の提供	1)各種スポーツ大会への参加促進 2)多様なスポーツの体験機会の充実 3)スポーツを通じた障がいのある人の社会参加の促進	スポーツ大会補助 スポーツデイの開催 スポーツ推進委員会活動支援 障がい者スポーツ大会	
		3 女性が輝く スポーツ環境の整備	1)スポーツへの興味・関心を喚起する機会の創出 2)子育て世代のためのスポーツの場の拡充と情報提供	みしまタニタ健康くらぶ事業 産前産後ケアセミナー 子育て世代スポーツ教室	
		4 スポーツを通じた高齢 者の生きがいづくり	1)高齢者が親しめる軽スポーツの普及 2)マスターズスポーツの普及	ゲートボール・グラウンドゴルフ・輪投げ大会 高齢者向け教室	
	2 暮らしを豊かに するコミュニティ スポーツの推進	5 スポーツ推進のための 基盤整備	1)スポーツを推進する人材の育成 2)市民主体のスポーツ推進団体の支援 3)広報・情報提供機能の充実 4)「新しい生活様式」に対応したスポーツ基盤の整備	スポーツ推進委員研修 スポーツ少年団指導者研修 スポーツ団体及びスポーツ活動の情報発信	
		3 スポーツによる “健幸”都市づくり	1 トップスポーツの支援 とチームとの連携促進	1)ふるさとトップアスリートを支援する仕組みの整備 2)トップチームと連携したまちづくりの推進	スポーツ功労者表彰 ホスタウンへの登録と交流推進
			2 ウォーキングの まちづくり	1)楽しく歩ける機会と場づくり 2)ノルディックウォーキングの普及	ウォーキングプラスワン事業 ノルディックウォーキングの普及
			3 健康づくりの推進	1)日常生活におけるスポーツ習慣の啓発等による健康づくり 2)“健幸”長寿のためのスポーツ推進	健幸マイレージの普及 みしま健幸体育大学 いきがい教室・三島いきいきカレッジ
			4 スポーツを通じた 地域の活性化	1)スポーツを通じた交流人口の拡大 2)広域連携によるスポーツ関連産業の振興 3)スポーツを通じたSDGsの取り組み	三島スポーツ文化コミッション活動 Eスポーツ運営支援 ウォーキングイベントの開催
	5 スポーツ施設の 整備促進	1)公共スポーツ施設の維持・管理 2)街中・街角スポーツ環境の整備 3)市民ニーズに沿った施設の整備	スポーツ施設管理・体育施設の整備 ウォーキング・ノルディックウォーキングコースの整備		

(2) 成果

【凡例】◎：目標以上の成果が得られる見通し、○：達成または達成可能、△：条件次第で達成可能、×：達成不可能

成果目標	目標値 (R02)		実績 (R01)	評価	達成見通し／目標と乖離の理由や要因
1. 次世代を担う子どもたちのスポーツ環境の整備					
1.1 時代変化に対応したスポーツ環境の整備					
中学・高校生が活動可能な地域スポーツクラブ連絡会の設立	設立		なし	×	若干のスポーツクラブはあるが、指導者や活動場所の確保が難しく、さらなる中・高校生の活動可能なスポーツクラブ自体の発足が難しい状況である。
みしまジュニアスポーツアカデミー受講生の全国大会、国際レベルの大会への出場者数	2人		13人	◎	達成済み
1.2 スポーツ保育の普及					
幼児期・学童期のスポーツ教室の参加者数	37,600人		36,158人	△	新型コロナウイルス対策をするために人数を制限しての開催となり、スポーツ離れも懸念される。
2. 暮らしを豊かにするコミュニティスポーツの推進					
2.1 地域の絆を創る身近なスポーツ環境の整備					
市民運動会校区大会の実施校区数	14校		13校	△	1小学校区で主体となる体育振興会がなくなったため、開催できなくなった。
公民館等を利用した地域スポーツ教室などへの講師派遣数	14件		36件	◎	達成済み
2.2 幅広くスポーツ参加を促す機会や場の提供					
市内公共スポーツ施設の年間延べ利用者数	62万人		624,150人	◎	達成済み 温水プールの修繕や新型コロナウイルスの関係で施設が利用できない期間があったにも関わらず目標値を達成している。
2.3 女性が輝くスポーツ環境の整備					
子育て世代のスポーツ教室での託児サービス実施率	30%		0%	×	現在は、親子で参加できるスポーツ教室を実施している。また、母親の就労が増加しているため参加者が減少してきている。

【凡例】◎：目標以上の成果が得られる見通し、○：達成または達成可能、△：条件次第で達成可能、×：達成不可能

成果目標	目標値 (R02)	実績 (R01)	評価	達成見通し／目標と乖離の理由や要因
2.4 スポーツを通じた高齢者の生きがいづくり				
高齢者（70歳以上）の週1回以上のスポーツ実施率	70%	78%	◎	既に目標を達成しているが、今後は横ばいとなる見通し。
2.5 スポーツ推進のための基盤整備				
スポーツ推進委員のうちスポーツ指導者資格保有者数	延べ10人	延べ9人	△	初級障がい者スポーツ指導員の資格取得を促し、受講できる委員がいれば達成できる。
3. スポーツによる“健幸”都市づくり				
3.1 トップスポーツの支援とチームとの連携促進				
トップチームとのパートナーシップ協定の締結	2件	2件	○	目標達成済み
3.2 ウォーキングのまちづくり				
新たなノルディックウォーキング・ウォーキングコースの設定	2コース	2コース	○	毎年更新を行っており、2コースの維持に努めている。また、2コースを使用したウォーキング大会も開催しているが、さらに周知を図る予定。
3.3 健康づくりの推進				
大人の肥満（BMI25）の割合	男性 20% 女性 15%	男性 26.8% 女性 20.2%	×	県内での比較をしても、肥満率が高い傾向にあり、平成28年度より高くなっている状況。要因としては、男性は就寝前の食事と飲酒が考えられ、女性は間食が多い事が考えられる。運動については週2回実施している方は男女共に半数ほど見られる。さらなる啓発と運動習慣づくりに努めている。
3.4 スポーツを通じた地域の活性化				
三島市への大会（合宿）・イベントの年間延べ誘致日数	30日	27日	○	台風やコロナの影響で中止となったイベントもあった。
3.5 スポーツ施設の整備促進				
市民の公共スポーツ施設に対する満足度	12%	11.2% (R02調査)	○	市民アンケート調査の結果では、ほぼ目標水準に達している。

2. 三島市の運動・スポーツ推進の課題

(1) 政策上の課題

- ・関係団体などと連携しながら市民が気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを官民協働で進め、効果的にスポーツを通じたまちづくりを推進していく必要がある。
- ・スポーツは、健康づくりのための柱の施策として位置づけられ、スポーツを行うことが生活習慣の一部となり、心身共に健康で幸せな暮らしができるようスポーツ団体や地域、学校、企業との協働により、誰もが気軽に楽しめるスポーツ活動の普及や施設の充実に努めることになっている。
- ・「地域の絆づくり」の観点からもスポーツが果たす役割は大きく、スポーツを媒介として地域コミュニティの活性化に取り組む事も重要である。
- ・結婚・子育て世代の定住促進につながるよう、子どもの運動能力や意欲、社会性、創造性を育むためのスポーツ環境を整備することが効果的である。
- ・働き盛りの世代の健康づくりにとって、職場を通じたスポーツ習慣の啓発や奨励が重要であることから、商工会議所などと連携した取り組みのより一層の推進が求められている。
- ・東京2020大会等の開催を地域スポーツ推進の好機と捉え、大会終了後も持続する仕組み(スポーツレガシー)を創出する効果的な施策を展開していくことが重要である。

(2) 場の課題

- ・市民アンケート結果では、市内公共施設への満足度は、近年、改善の傾向がみられるものの、施設が老朽化していることや不足しているとの不満を持つ市民が多く、全体的な満足度は低い。
- ・公共スポーツ施設、学校の体育施設開放とともに、休日、平日夜間の稼働率が高く、施設の充実、利用効率のさらなる向上策、スポーツ施設以外の施設をスポーツの場として活用する方策、企業や高等学校、大学等と連携した場の拡充策等が求められている。
- ・スポーツを通じて交流人口を拡大し、地域経済を活性化することをねらいとして、スポーツ大会や合宿誘致を行う上でも会場の確保が課題となるため、既存の大会や行事、市民利用との調整が求められる。
- ・市民アンケート結果では、過去1年間に実施したスポーツ、今後始めたいスポーツともに、ウォーキングや体操(健康エクササイズ含む)など、身近に取り組めるスポーツや運動が上位にあげられている。
- ・地域のスポーツ環境として、身近な場、高齢者や女性専用の場、初めてでも参加しやすい場が望まれている。

(3) 指導者の課題

- ・生涯を通じてスポーツに親しむためには、幼児期から学童期(小学校低学年)のスポーツ(遊びの要素を持った身体活動)を指導できる人材が求められる。
- ・学童・思春期におけるスポーツ指導において、成長期におけるスポーツ障害やバーンアウト(燃え尽き症候群)等の問題を生じさせることないことや自主性を育てることなど、指導者への適切な情報提供や研修機会を充実する必要がある。
- ・スポーツ推進委員は、地域のスポーツをけん引する指導者として重要な役割を果たすことから、スポーツ推進委員の活動を支える効果的な研修等の充実が必要となっている。
- ・高齢者の健康維持、介護予防や生きがいづくりのためのスポーツ・運動の推進が重要であるため、高齢者自身をボランティアや指導者として活用するなどの方策も含め、スポーツ指導者の育成、確保が必要である。

(4) 運営システムの課題

- ・少子化や嗜好の多様化によって、スポーツ少年団、学校部活動などの従来の枠組みだけでは、子どものスポーツ環境を維持することができなくなりつつあり、既存の活動のあり方を見直すとともに、地域における子どもの運動・スポーツ活動の新たな仕組みの整備が求められている。
- ・各地区の体育振興会は、地域によって活動レベルに差があり、ノウハウが蓄積されず活動が低調な地域も存在しており、校区間の情報共有によって全体的な活動レベルの向上を図る必要がある。また、役員の担い手がなく、組織が持続できなくなった校区もみられることから、スポーツ推進委員など他のスポーツ関連組織とこれまで以上に連携強化を図ることが求められている。
- ・市民ニーズは、競技系スポーツよりもウォーキング、ジョギング、サイクリング、ヨガなどを求める傾向にある。また、テニス、ゴルフなどの個人や少ない人数の仲間で活動するタイプのスポーツの実施率が高くなっている。このように多様化するニーズに対応したスポーツサービスの提供が課題となっている。
- ・40代までの女性のスポーツ実施率、関心が相対的に低いことから、子育て支援との連携や駅、ショッピングセンターなどのスポーツ以外の目的で立ち寄る場の活用、美容やダイエット等を切り口としたアプローチなど、スポーツ無関心層の「初めの一歩」を踏み出せる仕掛け、仕組みが求められる。
- ・スポーツ未実施層の約2割は、「6カ月以内にスポーツを開始したい」と回答しており、スポーツ無関心層に対して、楽しみや交流につながるスポーツ情報の提供などで、スポーツに対する興味、関心を喚起していく必要がある。
- ・生きがいや仲間づくりにも配慮した高齢者のスポーツ参加の仕組みづくりが必要とされている。
- ・障がい者スポーツは、障がいを持つ人の社会参加を促進する有効な手段であり、障がい者スポーツを体験したり、健常者とともにスポーツを楽しめる等の機会の拡充が課題となっている。

3. 第3期計画において期待すること

① 自然と運動・スポーツにつながる環境づくり

運動を日常生活に取り入れるためには、日々の生活の中で無意識に体を動かす機会を増やす仕組みが必要

街づくりが運動無関心層を動かすきっかけになる。

例) ガーデンシティ・ウォーカーシティ

イベントでのスタンプラリー (会場を分散して歩いて回るなど)

歩行者天国

② 人材の育成

地域で手軽に運動ができるよう、各世代ごとにスポーツリーダーを育成

③ 学校の部活動の在り方の検討

学校単位での部活動では種目を選べない、部員が足りずに試合ができない

市全体で部活動が選べて試合も行える仕組みづくり (中体連のあり方)

④ 地域スポーツを行える仕組みづくり